

- 放送日 8月13日(火)、8月20日(火)
- テーマ
「レジ袋削減県民スクラム運動」、「信州プラスチックスマート運動」について
- 出演者
諏訪地域振興局環境課 環境保全指導員 宮下 万由美
- 聞き手とのやりとり(概要)

Q1 先ず、「レジ袋削減県民スクラム運動」について教えてください。

A1 ・「不要なレジ袋を受け取らない」という、誰もが手軽にできる長野県民の取組です。ごみの減量や資源の節約、CO2削減につながる環境にやさしいライフスタイルへの第一歩として、平成20年から始まりました。
・マイバックを持参することで、ごみとなってしまうことの多いレジ袋の使用を減らしましょうという運動です。

Q2 諏訪地域ではどのような形で行われてきたのですか。

A2 ・消費者の会や市町村の職員の皆さまに御協力をいただき、大型店舗の入り口で、マイバックの持参を呼び掛ける啓発を行い、また、それに合わせマイバックの持参率調査を行ってきました。
・諏訪地域は、消費者の会の皆さまの活動が熱心であったことに加え、地域の皆さまにも関心を持っていただくことができ、平成30年度末には県平均とほぼ同じ7割の持参率です。

Q3 6月に軽井沢で開催されたG20のエネルギー・環境関係閣僚会合で、来年度からレジ袋を有料化するという国の方針が示されましたが。

A3 ・今、細くなったマイクロプラスチックを餌と間違えて海洋生物が食べてしまっているなど、世界的に海洋プラスチックごみが問題になっています。
・先程からお話ししてきているレジ袋もプラスチックでできています。
・鼻にレジ袋が入ってしまったままのウミガメやレジ袋をイカと間違えて誤飲した魚などの画像などを皆様もご覧になったことがあると思います。

・無料で配られるレジ袋は簡単に捨てられてしまうので、有料になることでレジ袋を何回か使ってくれる人が増えてくれることも期待しますが、長く使えるマイバックを持つ人が一層増えてくれるよう、引き続き呼び掛けていきたいと思っています。

Q 4 レジ袋のお話を中心にお聞きしましたが、海洋プラスチックごみの対策として、他に取組まれていることはありますか。

A 4 ・長野県は海なし県ですが、上流県としてプラスチックと賢く付き合う「信州プラスチックスマート運動」を5月17日から開始しています。
・この運動では、皆さまに3つの、意識して行っていただく行動をお願いしています。

・一つ目は「選択」です。選ぶということです。

ストロー、レジ袋は必要かどうか意識して「選択」、選んでいただき、いらないときは断ってください。

・二つ目は、「転換」です。別のものに替えるということです。

使い捨てプラスチックから代替品へ少しずつ「転換」、替えてみましょう。レジ袋の代わりにマイバックを、ペットボトルの代わりにマイボトルを持参しませんか。

・三つ目は、「回収」です。捨てるのではなく処理してもらうのです。

プラスチックは使い終わったらルールに従い、分別して、使える資源物が処分するごみとして、「回収」してもらいましょう。

Q 5 日常のライフスタイルを少し見直すことで、海の汚染や地球環境を守ることに貢献できるのですね。最後に何かありますか。

A 5 ・ひとりひとりが少しずつ行動を変えていくだけでも、地球環境を良くすることができます。

・まずは、今から、ご自分でできることを是非始めてみてください。